

●表面

一、「〇〇を〜という」とか「〇〇という△△」「〇〇〜、」「〇〇〇〇△△」「〇〇〇〇△△」という式が成り立つ。
 ※冒頭からハッピーエンドではないことが暗示される。

二、P 122 L 1 「これは」（指示語）…ちらしの一文全体をさす。

↓引用文は二字下げる、ということ覚えておき、自分が作文するとき、何かの書物から引用する際は二字下げることを実践しよう。

〇〇〜、〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△ 〇〇〇〇△△

三、「抜き出しなさい」という問題。教科書の表現から変えてはいけない。

P 122 L 15 「大きな官舎で家族と暮らしている雰囲気ではなかった。」↓P 124 L 15 「終戦の前から私どもは中国の青島で仕事をしてま
 して、一人日本に残してきた龍男を…」

四、「私の予感」とは同ページ（二〇行目）「何かよくないことをしてしまったという感じ」から続くもので、本人ではなく、ご両親が
 てきたことから感じられる予感である。

五、広島への原爆投下日だけでなく、長崎原爆記念日（8月9日）、終戦記念日（8月15日）も忘れないこと。

※「八月や六日九日十五日」（小林良作）という川柳もある。また、6月23日は「沖繩慰霊の日」である。当日は県内の公的機関は休
 日である。

七、文章に傍点を付けるときは、筆者が何らかの強調をしたいとき、辞書に書いてある意味とは違う、独特の意味を持たせたいときに使う
 ことが多い。辞書には【勝手】：他人のことはかまわないで、自分だけに都合がよいように振る舞うこと。とある。辞書的な意味と彼女
 の発言の真意、彼女の発言を作者がどう受け取ったかをよく考えてみるとよい。

八、紙面の都合上、掲載できない語句が多いが、レポートの四語以外にも教科書下段で▽の付いた語句は、学習書や辞書で調べておくこと。

九、紙面の都合上、掲載できない漢字が多いが、レポートの十四語以外にも教科書下段や、P 一二五の「漢字と語彙」欄の語句は書けるよ
 うに、また読めるようになっておくこと。

★、島崎藤村『初恋』全文（参考）四連からなる文語詩（七五調の韻文）

まだあげ初めし前髪（そ）
 林檎のもとに見えしとき
 前にさしたる花櫛（はなぐし）
 花ある君と思ひけり
 やさしく白き手をのべて
 林檎をわれにあたへしは
 薄紅（うすくれなゐ）の秋の実に
 人こひ初めしはじめなり
 わがこゝろなきためいきの
 その髪の毛にかゝるとき
 たのしき恋の盃（さかずき）を
 君が情に酌（く）みしかな
 林檎畑の樹の下に
 おのづからなる細道は
 誰が踏みそめしかたみぞと
 問ひたまふこそこひしけれ

現代語訳



あの日林檎の木の下で、髪を結び上げたばかりの君を見つけ
 ました。
 その大人になりたての髪に挿した花櫛が、僕には君の髪に咲
 いた花のように見えました。
 優しく白い手を差し伸べて、君は僕に林檎をくれました。
 その薄い紅色をした林檎を見ながら、僕は初めて恋の始まり
 というものを知ったのです。
 僕の口から思わずこぼれた溜息が、君の髪にかかるほど傍に
 居てまるで素晴らしき恋という名の盃に、二人の想いを酌ん
 で飲み交わしているようでした。
 君とのデートを重ねるうちに、いつしかリンゴの木の下には
 道ができ、二人の逢瀬を振り返りつつ「誰がこの道を作った
 のかしらね」なんて笑う君が僕にはとても愛おしく思えるの
 です。

※キリスト教で人類初の男女とされる「アダムとイブ」もりんごを食べて、恥じらいや嫉妬など、人間として感じなくてもいい、醜い感情を持つようになったとされている。

●裏面

一、学習書P一三五◆要旨◆をしつかり読めばわかるようにできている。細かい文字だが丁寧に読もう。

六、「一文」ではないので、広い部分をカバーして抜き出す必要がある。

五、崇高さ…「白衣の天使」(英:The White Angel) は、1936年に発表されたウィリアム・データーレ監督によるケイ・フラ
ンシス主演のアメリカの歴史映画。この映画は、クリミア戦争中のフローレンス・ナイチンゲールの看護における先駆的な役
割を描いている。

七、「黒い長い豊かな髪」…戦時中の女性看護師が「長い豊かな髪」型だった
かどうかさえ、疑問の残るところ。女性を表すのに「長い髪の毛」は大切だっ
たのだろう。

ナイチンゲール誓詞

われはここに集いたる人々の前に厳(おごそ)かに神に誓わん
わが生涯を清く過ごし、わが任務(つとめ)を忠実に尽くさんことを。

われはすべて毒あるもの、害あるものを絶(た)ち、
悪しき薬を用いることなく、また知りつつこれをすすめざるべし。

われはわが力の限りわが任務の標準(しるし)を高くせんことを努(つと)むべし。

わが任務にあたりて、取り扱える人々の私事(しじ)のすべて、

わが知り得たる一家の内事(ないじ)のすべて、われは人に洩(も)らさざるべし。

われは心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧(ささ)げん。



春日権現験記(鎌倉時代の絵巻物)

2mの長髪に、現代でいう「エクステ」のような付け毛もあったそう。当時のシャンプーは米のとぎ汁。年に数回しか洗えず、香料でごまかしていた。

八、レポートでは漢字の読み書き、語句の意味に触れる問題の数は不十分である。左に教科書の中に出てくる漢字を振り仮名つきで掲載した。充分練習して読み書きできるようになっておくこと。

戦闘	せんとう	抵抗	ていこう	率いる	ひき	懐中電灯	かいちゆうでんとう	緊張	きんちよう	呼吸	こきゅう	眼差し	まなざし	処置	しよち	疲労	ひろう	衝動	しやうどう	お辞儀	じぎ	被弾	ひだん	撤退	てつたい	瞬間	しゆんかん	走馬灯	そうまどう
断念	だんねん	不審	ふしん	照準	しやうじゆん	炸裂	さくれつ	土砂降り	どしやぶ	混乱	こんらん	雑然	ざつぜん	迎え撃つ	むかう	無惨	むざん	偶然	ぐうぜん	嗚咽	おえつ	襟元	えりもと	眺める	なが	徒労	とらう	黄昏	たそがれ
自決	じけつ																												

※皆さんに読んでほしい、太平洋戦争に関する文章をいくつか挙げておきます。

『白旗の少女』 比嘉 富子 沖繩戦を一人で生きぬいた七歳の少女の記録。太平洋戦争末期の沖繩で、七歳の少女が、一カ月以上も戦場をさまよひ、偶然めぐりあった老夫婦の献身で、一人で白旗を持って米軍に投降するまでの愛と感動の記録。

『沖繩戦』 元沖繩県知事 大田昌秀 古いけれども読むに値する本。日本兵の攻撃に怒った、アメリカ兵が日本人の非戦闘員を、男

※長崎原爆が舞台の作品(参考)

『長崎の鐘』 永井隆 長崎大学医学部の永井博士が執筆したナガサキ原爆文学を代表する一冊。

『長崎原爆記―被爆医師の証言』 秋月辰一郎 福島原爆事故直後から話題になった、長崎の医師によって書かれた被爆証言。